

AED 導入 10 年目に見えた課題と将来展望

期日：平成 27 年 3 月 8 日(日)

会場：大阪大学中之島センター10F(佐治敬三メモリアルホール)

開催趣旨：

本年度は、日本で一般市民がAEDを使うことができるようになってから 10 年目となる節目の年であった。日本は、今や世界で最もAEDの普及した国となったが、心停止となった際にAEDが使われるケースはまだほんの一部である。本セミナーでは、「AED 導入 10 年目に見えた課題と将来展望」をメインテーマとし、普及しつつあるAEDを積極的に有効活用し、突然の心停止となってしまった方を1人でも多く救命するためには、何が必要で、解決すべき課題は何なのかを明らかにしつつ、将来のあるべき姿を市民の皆様とともに考えることができた。なお、本セミナーは、「減らせ突然死プロジェクト実行委員会」の協力を得て開催した。

参加者：一般市民 121 名(総数 140 名)

プログラムと骨子：

13:00 開会のご挨拶 西本理事長

■第一部「基調講演」 13:05～13:35



テーマ：「AED 導入 10 年目に見えた課題と将来展望」

減らせ突然死プロジェクト実行委員会 委員長、

立川病院 院長 三田村秀雄 氏

講師紹介：三田村先生は日本不整脈学会副会頭、日本循環器学会 AED 検討委員会委員長など多くの公職につかれ、学会発表、著作なども多数。

骨子：さまざまな最新データを紹介されながら、課題と将来展望について話され、特に以下の点を強調された。

①目撃された心原性心停止は 2005 年～2012 年の 9 年間に約 2 万人増加したが、市民と救急隊の力で救命率は 1.7 倍になり、その結果 2.4 倍の年間 3,000 人が救われるようになった。

②現場の市民が CPR を行うと社会復帰率が 2.5 倍になるが、その実施率は 9 年間で 10%増加し、51%になった。

③除細動救命の 2割は現場市民の AED(PAD)によるもので年間 455 人に達する。PAD による救命率は 50%で社会復帰率は無処置の 10 倍だが実施率は 3.6%に過ぎない。

④救命率の改善は死亡率の増加に追いつかず、今後は生徒/学生や市民に対する救命法教育の推進、AED へのアクセス改善、原因となる致死性心臓病予防管理が重要。

[次頁へ](#)

■第二部「関連5講演」 13:35 ～15:15



1.「大阪ライフサポート協会10年の活動から見えた課題」

大阪ライフサポート協会 西本泰久 理事長

心肺蘇生講習会、PUSH プロジェクト、大阪府 AED マップの運営など当協会 10 年の活動から見えた課題にふれ、「良きサマリア人法の整備」「バイスタンダーの心のケア」などを強く訴えられた。



2.「AED の開発・製造・販売からみた課題」

電子情報技術産業協会
体外式除細動器WG主査 大高守 氏

一般市民による除細動が認められた経緯やバッテリーの期限切れ、譲渡、廃棄等の設置者情報の把握、耐用年数、使用環境等の電子機器の限界などの課題について述べられた。



3.「AED10 周年関連取材から見えた課題」

NHK 報道局記者 三瓶佑樹 氏

「半数以上の方が AED を使えない」というショッキングな調査結果や寒さに弱い AED の実態など取材から明らかになった様々な課題について話され、特に「使った人(救助者)へのケアの必要性を強調された。



4.「尾張旭市消防本部の先駆的取り組み」

尾張旭市消防本部総務課 栗原謙 氏

市の安全安心対策事業として 24 時間使用できる AED を確保することを検討。地域住民に周知され易く市内に点在しているコンビニが AED 設置に最適と判断し市内全店舗に設置した事例を紹介された。

[次頁へ](#)



5.「AED 設置情報の有効活用に向けた取り組み」

日本救急医療財団 AED 普及・啓発検討委員会委員長、
医誠会病院 病院長 丸川征四郎 氏

AED 設置情報の現状と課題から登録情報の改善や今後の利活用について紹介され、「隣人の命は私の命と同じく愛おしく尊い」との言葉で協力をお願いされた。

■第三部「パネルディスカッション」 15:30 ～16:45



テーマ:「AED導入 10 年目に見えた課題と将来展望」

パネラー:講演者に加え、厚生労働省 酒井智彦 氏(左写真)

コーディネータ:三田村先生、石見副理事長

概略:AED の社内設置に苦慮された株式会社メディセオの谷口雄二氏、実際に AED を使って救命活動をされた鯉江宏樹氏、枚方市のコンビニへの AED 設置に尽力された薮圭介氏に体験談を発表いただき、体験から見えた課題に焦点をあてたディスカッションが行われた。

知識より勇気、形より気持ちが伝わる講習会、取り組みの重要性など、実際に AED を使った救命処置を増やすためにどうしたらよいか活発な議論が交わされた。厚生労働省 酒井専門官からは、①現在のところ、心停止の現場で AED が使われた割合、つまり AED を持ってきた割合は調査されていない状況であり、さらに、使えなかった場合にどのような問題があったかなどの検討が必要ではないかと考えており、厚生労働省科学研究で取り組んでいく予定であること。②適正配置については、H25 年 9 月に設置、適正配置のガイドラインを出しているのをご覧いただきたいこと。③AED の設置登録情報の有効活用として、厚生労働省から日本救急医療財団に対し、都道府県や消防機関等が情報を活用できるよう体制構築を依頼しているおり、AED10 周年の区切りとして H27 年 6 月中を目途に新しい形で同財団から設置登録情報を提供し、厚生労働省からも活用を促す予定であること等が紹介された。

セミナー参加者からは、①いろいろな方面からの意見交換が聞けてよかった。②実際に救助した意見、感想はすごく響いた。③保守管理の重要性について改めて認識せざるを得ない。④「一歩踏み出す勇気」がいかに大事か、使った人の心のケアの大切さなど生々しい話を初めて知った。などの貴重なコメントが寄せられた。

16:50 終了のご挨拶 谷村信宏理事

<総括>

会場はほぼ満席となり、参加者のアンケートを見ても9割以上の方から「良い」との評価を頂いた。パネルディスカッションでは、市民の皆様から貴重な体験談やご意見を頂き、大変有意義な市民セミナーとなった。